

新型コロナウイルス、暮らしネット・えんでは

経験したことがない新しい感染症流行の中、スタッフは検温、マスク着用、手指の消毒、事業所内の消毒と密度を減らすための変更など、考えられる限りの対応実行中。現在進行形の報告をお送りします。

◆ケアプランえん◆

2月27日、新座市介護保険課長名で「介護施設や病院入院中の場合の認定調査が12カ月延長」の通達がある。次いで4月初旬には在宅でも本人や家族の希望があれば同様に。認定審査会は書面審査に切り替わった。事業所から新型コロナ対応についての連絡が次々届く。「面会・見学は禁止」、「ショートやデイは利用前に体温測定を行い、37.5℃以上（37℃以上もあり）の発熱や体調不良、風邪症状がある場合は利用を控える」、「家族や友人に濃厚接触者がいる場合は、14日間程度利用を控える」等々。

医療系のデイケアは休止する事業所が多く、希望があれば、理学療法士や作業療法士が自宅に訪問リハビリを提供する等の代替サービスが行われる。昼食の確保や入浴に影響が出る場合は、配食サービスや訪問介護等のサービス調整の必要が生じる。急遽数名に配食サービスを依頼した。

通常利用者宅で行う担当者会議も開催を見送り照会で行うようになった。通常の連絡も対面を避け、電話や書類のポストインでしのいでいる。

ここに来て、利用者本人が熱発したケースがあった。家族に寝たきりの方のオムツ交換ができる介護力はない。新型コロナ感染ではないことがはっきりするまでは、感染予防を徹底した上で訪問回数を減らし、何とか対応してもらった。幸い普通の発熱だったが、本人に感染疑いがある場合の「予行演習」のような一件となった。

◆デイホームえん◆

感染の拡大を受け、利用者さんにご家族に利用回数や時間について相談しました。皆さんの近況や思いを受けて、4月13日から当面1人あたり週1回の利用、利用時間は通常通りとしました。また必要に応じて、臨時対応やご自宅への訪問を行っています。

利用回数を減らした結果、閉じこもりがちになっている方が多く、筋力や体力気力の低下が心配です。また、この状態が長引くとご家族の精神的な疲労も増していきます。訪問などで少しでもこの状態を防ぎ、「社会参加」できる機会を保ちたいと思います。